

東京都小児医療ネットワーク事業（平成22年度～25年度）について

事業の目的・概要

事業目的

都民が身近な地域で症状に応じた適切な小児医療を受けられる体制を整備するため、既存の小児医療資源を活用した医療機関間のネットワークを構築

事業概要

1 多摩小児医療ネットワーク（二次～三次連携モデル）

小児三次救急を担う東京都こども救命センターと、地域の小児医療の中核を担う二次救急医療機関間において、情報システムを活用し、地域の二次医療の支援や二次・三次間の転院搬送の迅速化、患者受入の円滑化などを図る。

【実施医療機関】

三次医療機関：都立小児総合医療センター
二次医療機関：多摩北部医療センター

【ネットワークの主な内容】

- (1) 遠隔診断支援システム（e-PICU システム）
- (2) 小児救急支援システム（e-Triage システムなど）

2 地域小児医療ネットワーク（一次～二次連携モデル）

地域の小児医療の中核となる二次救急医療機関と地域の診療所等との一次・二次間の医療連携を図るため、地域の連携会議を行うほか、研修事業等を実施する。

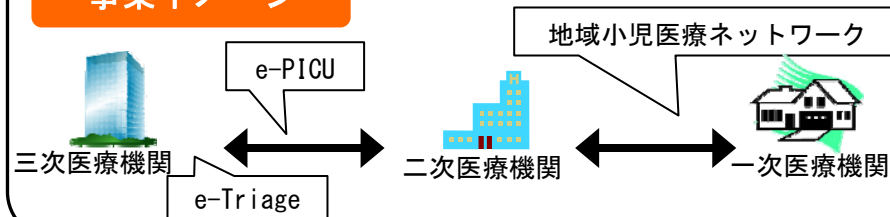
【モデル地域】

北多摩北部地域

【ネットワークの主な内容】

- (1) 地域医療体制強化
- (2) 地域への啓発活動
- (3) 小児医療水準向上及び小児医療標準化

事業イメージ



事業の実績等

1(1) e-PICU システム

システムの概要

- 生体情報モニター、患者カメラ映像、放射線画像の情報を基に、テレビ会議機能を用い、都立小児総合医療センターが多摩北部医療センターの診療を遠隔支援

支援側システム



利用実績と効果

通信実績	主な使用症例
22 件	<ul style="list-style-type: none"> ○ 腎低形成・好中球減少症 ○ RS ウィルス感染症による無呼吸 ○ 大腿骨骨折

- ① 多摩北部医療センターから搬送する間に、都立小児総合医療センターの医師が診療に介入し、早期かつ確実に患者状態を安定させることができた。
- ② 都立小児総合医療センターでの急性期治療後に、早期に多摩北部医療センターへ戻ることができた。また、都立小児総合医療センターの医師の顔が見えることで、患者家族は安心感を得られた。
- ③ 準救急の症例の場合、e-PICU システムを通じた指示により、多摩北部医療センターで処置や検査を行い、都立小児総合医療センターにおける入院期間を短縮できた。

1(2) e-Triage システム

システムの概要

- 緊急度判定システム（GTAS）を取り入れ、電子カルテシステムの一部として組み込み、患者情報を管理

利用実績と効果

- 平成23年11月の稼動以降、都立小児総合医療センターERを受診した全ての患者に対して実施

年度	実施数
平成23年度	13,308 人
平成24年度	37,411 人

- ① 看護師のトリアージ判断をサポート
- ② 「緊急度」と待ち時間や処置時間の関係や、トリアージ結果と重症度との関係などを検証

2 地域小児医療ネットワーク

事業実績と効果

- 時機に応じた地域の医療ニーズに応えるとともに、地域の診療所との連携を図るため、以下の事業を実施
 - (1) 地域医療体制強化
 - ・ 北北小児医療推進協議会、同協議会実務者委員会の設置、開催
 - ・ インフルエンザ・RS ウィルス等の流行状況に応じた救急診療体制の検討・強化
 - (2) 地域への啓発活動
 - ・ 小児救急に関する市民講座
 - ・ 感染予防と感染拡大防止を目的とした教育機関等への啓発
 - (3) 小児医療水準向上及び小児医療標準化
 - ・ 小児症例検討会の定期開催
- ① 救急医療におけるコンビニ受診の抑制と受療行動の適正化に効果が認められた。
- ② 地域の中核病院と診療所が連携し、長期療養児における在宅支援システムを構築し、地域移行を円滑かつ迅速に行うことが可能となった。